

		自己評価		学校関係者評価		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
	全校レベル	評価指標	評価指標による達成度	総合評価・所見		
生徒の視点に立った「わかる授業」と家庭学習の充実	1 学習指導の充実 ・生徒の学習意欲を喚起し、主体的に学習する習慣の定着を図る。 ・基礎・基本の確実な定着と応用力の育成及び個性を生かす教育の充実を図る。	<p>[教務課] ・生徒の進路希望に沿った選択科目の開講を可能な限り実施 ・少人数授業を各学年最低10講座実施</p> <p>[進学課] ・家庭学習時間 学年+1時間 ・早朝補習 年間100回以上実施 ・早朝補習 出席率95%以上</p> <p>[学校改革推進委員会] ・授業改善に関する研修会の実施 年2回以上</p> <p>[学年] ・基礎・基本となる力の定着 ・自主学習時間の確保 ・上記を組織的に指導するため、担任間の連携を密に図る。各学期に2回以上の学年集会実施。</p>	<p>[教務課] ・単位制の利点を活かし、生徒の希望する選択科目を開講することができた。 ・各学年10講座以上少人数授業を展開した。</p> <p>[進学課] ・家庭学習時間 1年平均2.03時間/2年平均時間2.01時間 1年生は目標達成できたが、2年生は昨年比0.5時間減で達成には至らなかった。 ・早朝補習 年間93回実施 学校行事等の関係で目標に届かなかったが基礎学力の定着と規則正しい学習習慣の構築に効果を上げた。 ・早朝補習出席率 94.2% わずかに目標値には届かなかったが、実質上の目標は達成できた。</p> <p>[学校改革推進委員会] ・校内研修会2回以上、校外の研修会(於 城ノ内中高校・川島中高校・脇町高校など)についても随時案内をし、希望者が参加した。</p> <p>[学年] ・担任と教科担任の連携により基礎学力の定着を図った。 ・模試の取り組み方や成績を活用した面談などで学習の大切さを示した。 ・各学期2回以上の学年集会を実施。</p>	<p>[教務課] (評価A) 各担任と協力し、生徒の希望する選択科目を開講することができた。少人数授業についても各学年10講座以上展開することができた。</p> <p>[進学課] (評価B) いくつかの項目で評価指数を超えることができなかった。</p> <p>[学校改革推進委員会] (評価A) 授業改善に係る取組が教員の間に広がり、一定の成果をあげることができた。</p> <p>[学年] (評価B) 学習の習慣化については一定の成果は上げたが、基礎力の定着には課題が残った。</p>	<p>生徒は学校生活に満足を感じていると推察される。現状にプラスアルファを配慮すればさらによくなると思われる。</p> <p>1・2年生と3年生で評価が異なる。3年生は方向性が見えていたと感じた。</p> <p>理数科学科に期待している。徳島のために働ける人材となるよう願っている。</p> <p>生徒は決意や期待も高いと思われるので希望校のイメージを持たせてほしい。</p> <p>「為せば成るノート」について、改革されるということだが、ぜひ内容の検討をし、実績が上がるものにしてほしい。</p>	<p>[教務課] 限られた教員数で選択授業や少人数授業をどう効率よく実施していくか、また、授業変更のしやすい時間割編成をどのように行うていくかが課題である。</p> <p>[進学課] 2年生における学習時間の伸び悩み(いわゆる中弛み)対策が必要。新学科の設置や高大接続改革における進学関係業務の増加が予測される。進学関係業務のさらなる精選や手法の改善、実施時期の調整等を図り、効果的かつ持続可能な進学指導を進めていく。今年度設定した評価指数は次年度も下げることなく、目標達成に向けた努力や改善を継続する。</p> <p>[学校改革推進委員会] アクティブ・ラーニングを主とする授業改善により、学力向上の実を上げるため、取組の一層の工夫が課題である。</p> <p>[学年] 課題への取り組み方について内容把握への充実を考えていきたい。 「為せば成るノート」は生徒の学習状況の把握だけでなく、生徒の抱えている問題の早期理解に役立つことを広く伝えていきたい。</p>
		下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況		
	<p>[進学課] ・学習習慣の定着 ・部活動と学習の両立 ・基礎学力の向上</p> <p>[学校改革推進委員会] ・授業力向上のための公開授業の実施</p> <p>[学年] ・課題(日々のプリント、週間プリントなど)の有効利用 ・予習→授業→復習のサイクルを習慣化し、学習内容の定着</p>	<p>[進学課] ・「学習の日」の設定と学習時間調査の実施 ・早朝補習の充実</p> <p>[学校改革推進委員会] ・アクティブ・ラーニング推進週間を2回実施</p> <p>[学年] ・課題の確認 ・「為せば成るノート」で学習時間を確認し、生徒一人ひとりに徹底させる。 ・「為せば成るノート」を活用した面談を年間5回以上</p>	<p>[進学課] ・年8回の学習の日と、翌日の学習時間調査を設定し、生徒やホームルーム間の学習状況の現状把握をすることができた。 ・早朝補習は全職員の協力のもと、計画的かつ効果的に実施することができた。</p> <p>[学校改革推進委員会] ・アクティブ・ラーニング推進週間そのものは2学期の1回の実施となったが、その間の10月3日に県内外の中高の教員対象に公開授業を実施したところ、150名以上の来校者があり有意義な研究会が行えた。</p> <p>[学年] ・課題提出を徹底し、学習の習慣化を図った。 ・「為せば成るノート」では生徒の学習時間を確認することができた。生徒の評価は低かったが、生徒の生活実態や悩み等の把握には一定の効果を上げることができた。 ・担任による年間5回以上の面談を実施した。</p>			

自己評価		学校関係者評価				
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	次年度への課題と改善方針	
生徒の視点に立った「わかる授業」と家庭学習の充実	全校レベル	<p>〔教科〕</p> <p>1)国語 ①日々の課題の提出率90% ②小テスト内容の定着率95%</p> <p>2)地歴・公民 ①小テストの正答率80% ②小テストの定着率95%</p> <p>3)数学 ①週プリントの提出率90% ②週明けテストの実施と再テスト合格率100%</p> <p>4)理科 ①実験・観察等を取り入れた授業を年間3回実施。 ②ノートや課題等の提出90%、小テスト等の実施。</p> <p>5)英語 ①各提出物の提出率90% ②語彙力・文法力小テストの正答率 70%以上</p>	<p>〔教科〕</p> <p>1)国語 ①日々の課題の提出率90%程度だった。 ②定期考査において確認したところ、80%程度の定着率だった。</p> <p>2)地歴・公民 ①小テスト正答率は再テストを含み80%達成した。 ②定着率は定期テストの結果から定着したとはいいがたい。70%程度である。</p> <p>3)数学 ①提出率は86%であった。 ②計画通り実施できた。</p> <p>4)理科 ①科目により異なるが、1～3回実施した。 ②提出率は90%以上であった。 小テストは実施できた。</p> <p>5)英語 ①提出率88%であった。 ②正答率 1年単語テスト80%、2年70%、 3年文法60%であった。</p>	<p>総合評価・所見</p> <p>1)国語 (評価B) 提出率に関しては評価指標をおおむね達成した。</p> <p>2)地歴・公民 (評価B) 正答率は達成したが、定着したとはいいがたい。</p> <p>3)数学 (評価B) 週明けテストは計画通り実施できたが、週プリントの提出は目標に達することが出来なかった。</p> <p>4)理科 (評価B) 実験の実施により、生徒の興味関心を喚起し、考察させることで、内容の理解や科学的思考力の育成に成果があった。また、ノート提出や小テストの実施により、基礎学力の定着に成果があったと推察する。</p> <p>5)英語 (評価B) 提出物は各学年90%近くに達した。小テストの正答率は1、2年のみの達成であった。</p>	<p>進路選択は多様化の時代であり、進学希望に合わせた学力向上への工夫が望まれる。</p> <p>生徒にとって高校時代は地方創生への協力か、国際舞台での活躍か、その基本を考える時期でもある。生徒の自助努力が基本であるが、先生方の専門分野の学習法の伝授、3年計画で希望校の目標値に到達するよう最後まで粘り強くサポートしてほしい。</p>	<p>1) 国語 内容の定着率の向上のため、小テストの事後指導の徹底をはかる。</p> <p>2)地歴・公民 小テストの準備の方法を工夫する。事後指導の徹底をはかる。</p> <p>3)数学 週プリントや週明けテストについての取り組み方を、繰り返し指導する必要がある。</p> <p>4)理科 授業内容の改善や精選、指導方法や演習実験・実験の再検討を行い、実験を実施する時間を確保できるよう計画的に授業を進める努力をする。</p> <p>5)英語 課題の与え方を工夫し小テストの正答率を高める。また、事後指導の徹底をして基本事項の定着をはかるようにする。</p>
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況			
	<p>〔教科〕</p> <p>○基礎・基本の徹底と定着 ○学習指導法の改善</p> <p>1)国語 ・言語に関する知識・理解の深化 ・特に読む・書く力の向上</p> <p>2)地歴・公民 ・わかる授業の実践 ・基礎基本の徹底</p> <p>3)数学 ・基礎・基本の徹底 ・思考力の育成</p> <p>4)理科 ・探究する態度の育成 ・科学的思考力の育成</p> <p>5)英語 ・家庭学習習慣を身につけさせ、基礎・基本事項を定着させる。</p>	<p>〔教科〕</p> <p>1)国語 ①日々の課題の配布と確認 ②古典の毎時間の小テストの実施</p> <p>2)地歴・公民 ①小テストの実施(週に1回程度) ②模試の過去問に取り組みさせる。</p> <p>3)数学 ①週プリントの配布と確認 ②週明けテストの実施 ③模試の過去問に取り組みさせる。</p> <p>4)理科 ①実験・観察のレポート作成により、考察する力を養成。 ②ノート整理や復習を通して、基礎・基本の定着。</p> <p>5)英語 ①語彙・文法・読解の課題を与え、定期的小テストを実施し、事後指導をする。</p>	<p>〔教科〕</p> <p>1)国語 ①日々の課題の提出率90%程度だった。 ②90%以上の時間で実施した。</p> <p>2)地歴・公民 ①、②について計画通り実施できた。</p> <p>3)数学 ①、②、③について計画通り実施できた。</p> <p>4)理科 ① 実験レポートの作成をさせることにより、考察する態度、考察力の育成に成果があった。 ②ノート整理や復習をすることにより、基礎・基本の定着に効果があった。</p> <p>5)英語 ①1、2年生には定期的に課題を与え、提出させた。3年生には毎日読解の課題を与えた。語彙テストを1年週1回2年3回、文法テストを3年週1回、計画通り実施し事後指導を行った。</p>			

自己評価				学校関係者評価		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
	全校レベル	評価指標	評価指標による達成度	総合評価・所見	次年度への課題と改善方策	
生徒個々の進路希望を実現するための情報提供及びキャリア教育の推進	2 進路指導の充実 ・進路への興味関心を喚起し、将来を見据えた望ましい職業観・勤労観を養う。 ・生徒の多様な能力、適性、進路希望に応じた、系統的・組織的な進路指導に取り組む。	<p>[進学課] ・大学出前授業や進路講演会を各学年、各学期1回以上実施 ・センター試験出願率70%以上</p> <p>[就職課] ・公務員説明会及び自衛官説明会を各1回以上実施するとともに、校外での説明会に積極的に参加させる。 ・2年生対象に本校主催のインターンシップを実施し、30人以上の生徒を参加させる。</p>	<p>[進学課] ・講演会等の対象学年と実施回数 大学出前講座:1年1回 進路講演会 :2年1回 進路集会 :1・2年3回, 3年4回 学習セミナー:1・2年各2回, 3年1回 小論文講演会:1・2・3年各1回 志望理由書講演会:3年1回 校外進路ガイダンス:3年1回 校内大学説明会:3年2回 難関大突破セミナー:1・2年2回 キャリア教育講演会:1・2年各1回 これらの取組は、生徒の進路意識の高揚に大きな効果があった。 ・センター試験出願率 199/275(72.4%) 昨年度をさらに5%上回り、目標達成できた。</p> <p>[就職課] ・公務員説明会及び自衛官説明会を各1回ずつ実施した。校外では「高校生に対する就職ガイダンス」に参加した。 ・インターンシップに14名が8事業所にそれぞれ参加した。</p>	<p>[進学課] (評価A) ・学年、担任、進学課が連携し、全教職員が協力して効果的に行うことができた。 ・センター試験出願率は2年で13%上昇し、評価指数を上回ることができた。</p>	<p>授業改善の工夫として、入試などの変化に対応すべく、アクティブ・ラーニングや電子黒板の導入、総合学習での探究活動など、考えることに重点を置いた指導がなされていることがわかった。</p>	<p>[進学課] ・講演会等の実施は生徒の学習意欲の向上等に一定の効果があるが、実施回数が特定の時期に集中している傾向がある。より効果的な行事の実施のために、効果の低い行事の精選や内容の改善をさらに進める必要がある。</p> <p>・センター試験出願者増加への努力は引き続き進めていく。</p>
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況			
	<p>[進学課] ・進路選択に関する生徒・保護者への情報提供の充実 ・全教職員が一丸となった組織的かつ手厚い進路指導の実施</p> <p>[就職課] 1)就職への情報源として説明会や職場見学に加えてインターネットの活用をはかる。 2)生徒のキャリア教育推進のための校外体験を推進する。</p>	<p>[進学課] ・学年やPTAと連携した進路保護者会や進路集いを学年毎に開催 ・進路だよりを定期的に発行 ・1、2年進路指導と3年生受験指導に教職員全員で取り組む</p> <p>[就職課] 1)6月に公務員説明会、7月に自衛官説明会を実施する。公務員模試を実施する。 2)ハローワーク提供の高校向けインターネット求人情報を最大限に利用する。 3)夏休み期間中に本校主催のインターンシップを実施するために、希望する職種に合う事業所を開拓する。</p>	<p>[進学課] ・進路保護者会 1年:4月・10月実施 2年:10月実施 3年:6月実施 PTA総会で進学費用講演会を開催 ・進路だより 内容を見直しながら年8回発行 HPに進路だよりや進学関係行事の様子を発信し、広報に努めた。 ・進路に関わる学校行事や学習指導に、全教職員で取り組むことができた。</p> <p>[就職課] ・6月に公務員説明会、7月に自衛官説明会を各1回ずつ実施できた。公務員模試は6月に実施した。 ・インターンシップの8事業所のうち希望する5事業所を開拓することができた。</p>	<p>[就職課] (評価B) ・公務員説明会及び自衛官説明会を各1回実施できた。校外での就職説明会に参加できた。 ・インターンシップには14名が参加できた。</p>	<p>生徒は進路選択に迷っており、その支援を求めている。面談はされているが外部支援(OBによる講演など)や外部への活動等(インターンシップなど)、外部への働きかけが必要と思われる。</p>	<p>[就職課] 就職希望生に対して職業観を持たせるため、充実した説明会やインターンシップを実施する工夫が課題である。</p>

自己評価				学校関係者評価		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
規範意識の一層の向上とルールを守りモラルやマナーを大切に する心、いじめを許さない心の育成	全校レベル	評価指標	評価指標による達成度		[生徒指導課] ・基本的な生活習慣の確立を図るための一助として、日々の立哨指導や駐輪指導、生徒によるマナーアップ活動を継続して行う。 ・自転車安全教育の徹底と強化を図り、自転車マナーの規範意識を向上させ、事故減少に向けた指導を継続していく。 ・いじめに繋がるおそれのある言動を見逃さないように、生徒観察に努め、教員間の情報共有を図りながら継続して行う。	
	3 生徒指導の充実 ・基本的な生活習慣の確立を図り、節度と品位のある礼儀正しい生活態度を育成する。 ・生徒の生活状況に応じた支援を行うとともに、安全教育を徹底する。 ・いじめの早期発見、解決に努める。	[生徒指導課] 1)モラルやマナーの指導を通じ、学校全体で社会規範意識の育成に努める。 2)交通事故を前年に比べ10%削減(H28年-20件) 3)いじめを許さない指導。	[生徒指導課] 1)学校全体で、生徒の社会的モラルやマナーの指導に取り組み、社会規範意識の向上・育成に努めてきた。 2)交通安全教育・マナーアップを強化し、学校全体で取り組んでいる。交通事故(H30年1月-11件) 3)教員間の情報交換と生徒との関係充実を図ることで、いじめの早期発見・解決に向けて取り組んでいる。	総合評価・所見		[生徒指導課] (評価B) ・毎日の立哨指導や生活への注意喚起によって、遅刻者の減少や駐輪マナーの改善が成果となっている。 ・交通事故については事故件数は減少傾向にある。 ・自転車マナーについては、規範意識の向上に向けた継続的な指導が必要である。 ・職員室での言動や服装は良くなっている。 ・校内の携帯電話使用状況は改善されてきた。SNS等での人間関係の縫れに繋がるといった事案については、早期発見に努めることができた。 ・いじめについて、直接的なものは確認できないが、いじめに繋がるおそれのある言動等が垣間見られる。
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況			
	[生徒指導課] 1)道徳的・社会的マナー指導の強化 ①頭髪服装指導の強化 ②言葉遣いや職員室での態度を改善 ③校内における携帯電話の使用方法的改善 2)安全教育の徹底 3)いじめ調査アンケートの実施と活用	[生徒指導課] 1)日常的に行うこととし、学校行事や学年集会では指導徹底する。 2)交通安全講話の実施 ①学期ごとに一斉指導を実施 ②クラスごとに年1回の交通安全ホームルーム活動を実施 ③学年集会等での注意喚起 3)7月・3月にいじめ調査アンケートを実施し、現状を把握するとともに担任面談等に活用する。	[生徒指導課] 1)身近な事案に対して、教職員の共通理解を図った上で、迅速に生徒指導を行った。集会や各ホームルームの場を活用した指導を徹底してきた。 ①各学期の始業式後、全職員によって学年毎の頭髪服装検査を実施し、改善に努めさせた。 ②全職員が機会を捉えて指導し、言動に改善が見られた。 ③校内における携帯電話の使用は、十分に守られている。 1年生を対象に携帯電話の安全教室を7月18日に開催した。 2)集会において交通安全への注意喚起を徹底して行った。 ①全教職員による一斉指導を4月・9月の2回実施した。 ②ホームルーム活動で交通マナーについて話し合い、安全への意識向上を図った。 ③外部等での発生事故事案を伝えていくことで、注意を促した。 3)いじめ調査は7月・3月(予定)に実施し、結果を全教員で共有したが、特に問題となる事案は見られなかった。	数年前に比べ、一時停止や挨拶など登下校のマナーがよくなったと感じる。 地域や小学校周辺で積極的に挨拶してくれる生徒がいて感謝している。		

自己評価				学校関係者評価		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度への課題と改善方針
	全校レベル	評価指標	評価指標による達成度	総合評価・所見		
豊かな心を育み、幅広く調和のとれた人材の育成と人権教育活動の充実	4 人権教育の推進 ・教育活動全体を通して人権についての知識を深め、豊かな人間性や互いに尊重する態度を育成する。 ・人権尊重の精神の積極的な啓発に努め、人権意識の高揚を図る。	[人権教育課] 1)人権ホームルーム活動に対する生徒の評価をAにする。 2)人権啓発紙の年間発行回数12回以上 3)「人権関連学校行事」に対する生徒の評価をAにする。 4)各教科における人権学習・人権教育を計画的に実施 5)生徒対象の人権教育講演会などを年2回以上実施 6)全体の人権教育職員研修会を年間3回以上実施	[人権教育課] 1)人権ホームルーム活動に対する生徒の評価はAであった。 2)人権啓発紙は12回発行することができた。 3)「講演会」「生徒活動報告会」など、充実した行事を実施することができ、「人権関連行事」に対する生徒の評価はAであった。 4)各教科に於いて、人権教育を積極的に実施した。 5)全体に対する講演会は1回、1年生に対する講演会を1回実施した。 6)研修会を年間3回実施できた。		特になし	[人権教育課] 誰もが居場所のある学校づくりのため、今後も人権教育の推進を図る。
		[人権教育課] 1)各クラスの状況に合わせて資料を集めて選択し、展開を工夫する。 2)人権啓発紙を年12回以上発行する。 3)人権集会・人権ウィークスに向け、4月から取り組み、内容の充実した展示を行う。 4)各教科において、年度当初に立てた計画に従って人権学習・人権教育を実施する。 5)人権教育に関する講演会・映画会を年2回以上実施する。 6)全体の人権教育職員研修会を年間3回、学年別の研修会を年1回以上実施する。	[人権教育課] 1)HR活動事前協議に於いて各クラスの状況に合わせ、資料を集め、選択し、HR活動は充実したものとなった。 2)人権啓発紙は12回発行することができた。 3)「生徒活動報告会」に際し、充実した展示を行うことができた。 4)各教科に於いて、人権学習・人権教育を積極的に実施した。 5)講演会・生徒活動報告会を実施した。 6)全体の研修会を年間3回実施、学年別研修会を年1回以上実施した。	[人権教育課] (評価A) ほぼ計画通り実施でき、高等学校人権教育研究大会の実施を通じて大きな成果を得た。		
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況			

自己評価				学校関係者評価		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度への課題と改善方策
	全校レベル	評価指標	評価指標による達成度	総合評価・所見		
部活動のさらなる活性化を図るとともに、生徒会や各種委員会の諸活動を充実する。	5 特別活動の充実 ・生徒の主体的運営を基本として、各種活動に取り組むことのできる学校行事、生徒会活動の充実を図る。 ・部活動を充実・活性化させ、生徒の精神面、体力面での成長を図るとともに、団結心や協力を育成する。	[特別活動課] 1)部活動入部率90%以上を目指す。部活動の教育貢献度について、教職員・保護者・生徒の評価をAとする。 2)生徒会広報の発行等により、生徒会や各種委員会の活動をPRする。生徒会活動・各種委員会活動について、教職員・生徒の評価をAとする。 3)球技大会や城北祭の学校行事について教職員・生徒・保護者の意見を取り入れ、効率化と活性化を図る。教職員・生徒の評価をAとする。	[特別活動課] 1)部活動への評価は、「魅力的部活動がある」と81%余りの肯定意見があり評価はAといえる。 入部率は85%で目標値にもう一歩であったが、1年生では90%と高い値を保っている。 2)9つある委員会では、それぞれ課題に応じた活動を行っており、教職員・生徒からの評価もAである。 3)学校行事についての、評価はAといえる。生徒から「自主性・主体性を養うことができた」で81%の肯定意見があった。		部活動が衰退しないようにぜひ続けてほしい。国際化という点でも部活動は重要である。	[特別活動課] 1)更なる部活動の活性化を図り、城北祭・球技大会を含めた学校行事への生徒の参画を図る。 2)生徒会活動については、より一層の広報に努め多くの生徒に理解と活動への協力を求める。
		下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況		
	[特別活動課] 1)部活動連絡協議会を開催し、より一層の部活動の活性化を図る。 2)生徒会活動についての積極的広報と生徒会活動への理解と協力を促す。 3)各種委員会の活性化を図る。 4)球技大会・城北祭の活性化を図る。	[特別活動課] 1)部活動連絡協議会を年間2回開催し、部員自らの取り組みによる、部活動の活性化を図る。 2)生徒会が中心となって学校行事への参加を促進し、活動の活性化を図る。また生徒会新聞を発行し、活動を生徒や保護者にアピールする。 3)各種委員会活動を活性化し、生徒が主体的に学校生活に取り組めるようにする。 4)生徒会役員を中心に球技大会・城北祭の準備委員会を組織し、企画運営にあたる。	[特別活動課] 1)部活動連絡協議会については、年度当初に予算審議等で開催したが、その後は開催できなかった。 2)生徒会からのお知らせは随時、行っている。役員改選時にはプロフィールを含め、今後の活動について広報を行った。 3)各種委員会の活性化については、クラス役員改選後、前後期の活動計画を作成し、全校生徒の前で活動報告を行うなど委員会活動への理解を促した。 4)城北祭の運営については、生徒会主体の前日祭とクラス中心の文化祭・体育祭で構成されており、各クラスの実情に応じた参加・運営がなされた。 球技大会については、体育委員会を中心として組み合わせ抽選や当日の運営業務を担っている。			

自己評価				学校関係者評価	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見
	全校レベル	評価指標	評価指標による達成度	総合評価・所見	
環境問題の理解と身の回りの環境美化実践および防災意識の啓発	6 安全・環境防災の推進 1)校内環境を整え、公共心や豊かな情操を育成する。 2)環境にやさしい学校を目指し、エネルギーの利用や物品の使用を効果的にする。 3)災害発生時に適切な対応ができる防災体制づくりに努める。	[環境防災課] 1)、2)新学校版環境ISO中間報告会での評価Aを目指す。 3)年間に防災避難訓練を1回、机下避難訓練を2回実施する。防災クラブの活動を進める。	[環境防災課] 1)、2)職員、環境委員、生徒会を中心に校内美化や環境資源の保護に取り組めた。 2)環境委員や生徒会との連携により、電灯等使用量やエアコン使用量、水道使用量、校内産出資源の分別再利用を進めた(評価A)。 3)防災避難訓練を5月16日(月)と9月7日(木)に実施。グラウンドへの避難をした。 その他、6月23日(木)、11月1日(水)に実施の南海トラフ地震対応訓練に参加し、初期対応訓練(机下避難訓練)を校内実施した。校内に災害避難啓発掲示板を設けて、災害の危険性や避難の仕方などを啓発展示した。防災クラブの3名は熊本支援交流活動に参加した。	[環境防災課] (評価A) 新学校版環境ISOに関する活動事項について、生徒は協力的に取り組んだ。生徒会役員と環境委員が特に積極的に取り組み、節電・節水、校内産出資源の分別再利用や啓発ボードの作成、ペットボトルキャップ回収、文化祭、体育祭でのゴミ箱設置・管理等をやり遂げた。PTA役員・部活動保護者会だけでなく多数の方が協力的に参加して校内環境が整った。 文部科学省、気象庁、徳島県などが企画した危機管理訓練に参加できた。大がかりな訓練はできていないが、定期的な訓練により基本事項の確認ができた。	避難訓練や防災士の資格取得、被災地である熊本への支援についてよくわかった。
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況		
	[環境防災課] 1)環境委員を中心としてさまざまな活動を通して意識啓発をする。 2)生徒会と環境委員を中心として啓発を推進する。 3)防災委員活動を通して、知識や実践力を身につける。	[環境防災課] 1)クリーンキャンペーンを年間2回、保護者・生徒・職員組織で年1回除草清掃作業を行う。 2)ゴミ分別や節電、節水、紙の3R活動を推進する。 3)防災研修会への参加や防災に関する学校行事を行う。防災クラブ活動を進め、防災掲示板等による啓発も進める。	[環境防災課] 1)10月12日にクリーンキャンペーンを実施。 8月27日にクリーンアップ作戦を実施。多くの参加希望者により、校内及び周辺を清掃することができた。 2)職員、環境委員、生徒会を中心に校内美化や環境資源の保護に取り組めた。新学校版環境ISOに掲げるゴミ分別や節電、節水、紙の3R活動では、よい成果が出せた。啓発ボードにより、達成度を広く周知した。 3)環境委員会を中心に災害避難訓練を実施。今年度は防災センターでの研修に参加し、熊本支援交流事業成果の発表を行った。防災掲示板を西渡り廊下に用意し、地震、台風、風雪等季節に応じて防災啓発した。文化祭では、防災に関する展示をした。今年度は1年生から4名の防災士を誕生させることができた。		

[環境防災課]
担任からの連絡による周知徹底と意識付け。環境委員によるクラス及び全校集会において直接の呼びかけの徹底。
啓発事項
①自然災害への対応
特別警報、風雪災害など
②東南海地震への対応
初期避難、防災避難訓練

		自己評価		学校関係者評価		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
	全校レベル	評価指標	評価指標による達成度	総合評価・所見	次年度への課題と改善方針	
運営組織の活性化と教職員研修の充実	7 学校の運営体制の充実 ・教職員一人ひとりが学校経営の当事者意識を持ち、課題解決のために組織的に取り組む。 ・研修体制の充実を図り、コンプライアンスの推進と、リスクマネジメントの意識を培う。	<p>[企画広報課] 1)情報セキュリティ研修を含め、月1回程度の注意喚起を行う。 [コンプライアンス委員会] 1)職員会議や職員朝会などの機会をもとらえて全職員に対し年間15回以上の啓発・研修を行う。 2)コンプライアンスに関する相談体制を確立・周知する。 3)予想される様々なリスクに対する危機管理体制(報告・連絡・相談)を確立し周知する。 [保健厚生課] 1)教職員対象の救急救命講習を年1回実施する。 [教育相談課] 1)特別支援の対象となる生徒の指導について、校内で共通理解を図る。 2)学校生活を営むにおいて心配な生徒一人ひとりについて校内での共通理解を図るため、担任アンケートと情報共有するための会議を開催する。</p>	<p>[企画広報課] 1)情報セキュリティ研修を2回、職員朝会において紙媒体による注意喚起を4回実施できた。 [コンプライアンス委員会] 1)職員朝会等で注意喚起するなど、短時間の研修も含めて22回実施し、啓発を図った。 2)3)4月に体制を整備し周知を行った。 [保健厚生課] 予定通り教職員対象の救急救命講習を1回実施した。 [教育相談課] 1)月1回のスクールカウンセリングを実施し、当該生徒に関係する教員とは共有できた。 2)計画通り実施した。</p>	<p>[企画広報課] (評価B) セキュリティホールやウイルスに関する情報を伝達できた。さらに迷惑メールへの対応などこまめに周知したい。</p>	<p>教職員や2年生の生徒を対象にした救急救命講習について十分わかった。</p>	<p>[企画広報課] 新手的ウイルスや迷惑メールの情報を多く周知する。 [コンプライアンス委員会] 次年度も、教職員の自覚と誇りを育成し、風通しのよい職場を維持するための研修を実施する。 [保健厚生課] 来年度も引き続き教職員対象の救急救命講習会を実施したい。 [教育相談課] 生徒の情報の共有のあり方についてはさらに工夫する必要がある。また、不定期に実施しているスクールカウンセリングを、制度を利用して定期的に行う実施する方策を探る必要がある。</p>
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況	<p>[コンプライアンス委員会] (評価A) 計画通り実施できた。 [保健厚生課] (評価A) 計画通り実施できた。 [教育相談課] (評価A) 職員による学校評価はAであり、計画通り実施できた。</p>		<p>[企画広報課] 1)毎月1回程度、Joruri掲示板などを用いて注意喚起を行う。 [コンプライアンス委員会] 1)年間2回以上の推進期間及び随時適切な機会を設けて、バランスのとれた研修や啓発を図る。 2)相談体制を整えて学校全体でのサポート体制を作る。 3)危機管理に関する具体的な事例に基づく研修を行う。 [保健厚生課] 1)教職員対象の救急救命講習会を1学期に実施する。 [教育相談課] 1)教育相談研修を年1回以上実施する。 2)不登校認定の依頼がある場合は特別支援教育委員会を開催して、現状について確認、今後の支援について話し合う。 3)必要のある生徒には、カウンセリング等の制度を利用する。</p>

自己評価		学校関係者評価				
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	次年度への課題と改善方策	
	全校レベル	評価指標	評価指標による達成度 総合評価・所見			
学校外との交流・連携やHPによる広報活動のさらなる活性化とボランティア活動を支援する校内組織づくりの推進	8 開かれた学校づくりの推進 ・学校評価を充実させ、保護者や地域から信頼される開かれた学校を目指す。	<p>[学校評価委員会] 1)保護者学校評価アンケートの回収率75%以上</p> <p>[企画広報課] 1)ホームページを年400回以上更新する。</p> <p>[国際交流課] 1)各課、各教科等の円滑な連携と協力体制を整え、ドイツ、リーゼ・マイトナー・ギムナジウムとの交流事業を充実させる。</p> <p>[特別活動課] 1)ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、延べ100名程度の参加を図る。</p> <p>[総務課] 1)各種PTA活動を活性化させ、広報活動を充実させる。 2)業務を円滑に遂行する。</p>	<p>[学校評価委員会] 1)保護者学校評価アンケートの回収率は、教員や保護者の御協力の結果、79.5%と目標を4.5%上回った。</p> <p>[企画広報課] 450回以上の更新が出来た。</p> <p>[国際交流課] 1)各課、各教科等の円滑な連携と協力体制を整え、交流事業を充実させることができた。</p> <p>[特別活動課] 1)ボランティア活動では、とくしまマラソン補助員として約70名、加茂地区社会福祉協議会主催福祉バザーへ約25名が参加した。</p> <p>[総務課] 1)研修の活動内容には保護者の意見を取り入れ改善した。 2)各会議、研修、行事を円滑に実施することができた。</p>	<p>[学校評価委員会] (評価A) アンケートの回収率は目標を達成した。内容についても実態にあうものに変更できた。</p> <p>[企画広報課] (評価A) 昨年同様1日1項目以上の更新ができた。</p> <p>[国際交流課] (評価A) 今年度は第九アジア初演100周年記念演奏会に係るニード・ザクセン州高校生との学校交流を一日行うことができ、双方の高校生にとって貴重な体験をすることができた。</p>	<p>ホームページの更新数が多いのに驚いた。また、情報提供にあたり、事実の伝達に重きを置いていることもわかった。これまで通りポリシーを貫き頑張っしてほしい。</p>	<p>[学校評価委員会] アンケート結果の信頼性を保つため、次年度も引き続き75%以上の回収をめざす。評価目標については経年比較などもあり、変更は難しいが、各課での検討が十分できるようにしたい。</p> <p>[企画広報課] 現在の更新頻度を維持する。</p> <p>[国際交流課] 今後は、ドイツとの姉妹校交流のみならず、国内外での国際交流の活性化についての方策を検討していく。</p> <p>[特別活動課] ボランティア活動への積極的な参加を今後も呼びかける。</p> <p>[総務課] 総会、各会議や研修会の案内が確実に届くようにする。研修会の内容を保護者とともに検討する。</p>
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況			
	<p>[学校評価委員会] 1)学校評価を充実させ、次年度の更なる改善に役立てる。</p> <p>[企画広報課] 1)ホームページによる情報発信の充実</p> <p>[国際交流課] 1)国際理解教育の推進</p> <p>[特別活動課] 1)生徒会や各種委員会・JRC部を中心としたボランティア活動組織の確立。</p> <p>[総務課] 1)PTA活動の円滑な運営と充実 2)学校行事・式典時における外部との連絡調整</p>	<p>[学校評価委員会] 1)職員・生徒・保護者アンケート、および学校関係者評価を実施する。また、評価目標についてもさらに検討し、取組の充実を図る。</p> <p>[企画広報課] 1)ホームページ更新について、部の顧問や分掌の課長を支援し、迅速な情報の提供を行う。</p> <p>[国際交流課] 1)姉妹校交流等で得た経験や知識を広く周知し、生徒および教職員一人一人が関わることのできる交流とし、内容を充実させる。</p> <p>[特別活動課] 1)全校生徒並びに教職員へボランティア活動への積極的参加を呼びかける。</p> <p>[総務課] 1)PTA活動における各種連絡調整や企画提案を行う。 2)城北祭や卒業式での渉外業務を行う。</p>	<p>[学校評価委員会] 1)学校評価目標の見直しを呼びかけた。学校評価アンケートの項目については、一部文言を変更した。</p> <p>[企画広報課] 1)ホームページを通じて情報発信を継続的に行った。</p> <p>[国際交流課] 1)各課、各教科等の円滑な連携と協力体制を整え、交流事業を充実させることができた。</p> <p>[特別活動課] 1)ボランティア活動への参加は少なかった。</p> <p>[総務課] 1)4月20日理事会、5月13日総会、5月26日理事会、1月9日3学年部会 2)9月10日文化祭、9月11日体育祭、3月1日卒業式</p>	<p>[特別活動課] (評価B) 小松海岸清掃活動が台風のため中止されたこともあり全体として、ボランティア活動への参加人数は昨年と比べ少なかった。</p> <p>[総務課] (評価B) 会議の回数は昨年と同じ。総会、会議、研修会の出席率は昨年とほぼ同じだった。</p>		